

## 頑張ることは素晴らしいこと

2024年3月にトルコで開催された第20回冬季デフリンピック競技大会にデフカーリング日本代表選手として出場した山口翔大さん<sup>やまぐちしょうだい</sup>。競技歴が浅いにも関わらず、代表選手にまで上り詰めた努力家です。現在も、デフカーリングの発展に向けて日々努力を続けています。



山口 翔大（やまぐち しょうだい）

Shodai YAMAGUCHI

1998年東京都生まれ、福島県在住

福島県内の特別支援学校教諭として勤務後、現在は日鉄鉱業株式会社勤務

一般社団法人福島県聴覚障害者協会会員

―出場したデフリンピック競技・種目は何ですか。

男子4人制のカーリング競技です。

―その競技はいつから始めましたか。きっかけはありますか。

始めたのは2022年で、3年目になります。

オリンピックでカーリングを見て、やってみたいと思っていましたが、チーム競技なので、きこえないとコミュニケーションが取れな

いと遠慮して始められずにいました。

大学の後輩（きこえる人）がカーリングをされていて、デフカーリング選手とも繋がりがあり、デフカーリングの団体を紹介してもらったのがきっかけです



ルールなど、デフカーリングならではの特征はありますか。  
また、魅力や見どころを教えてください。

他のデフ競技と同様に補聴器などを外さなくてはなりません、通常のルールと同じです。

例えば、ストーンの投げる速さやコース、道筋のズレについて、きこえる選手は声でコミュニケーション取りながら調整しますが、デフの場合は体の動きや表情で表現します。そのため、ルールが分からない方が見ても「掃かなくちゃいけないんだな」とか「真ん中に届きそうなんだな」といったことが分かると思います。

指示のサインを出すのは、スキップ（チームのリーダー）です。スキップはハウス（ストーンを投げ入れる同心円）の近くにおいて、指示を出します。他の選手も、それぞれ役割に応じた指示を出します。

ーデフリンピックを目指すことになったきっかけを教えてください。

競技歴が浅かったこともあり、2024年3月開催の第20回冬季デフリンピックの次の大会を目指して練習に励んでいました。

そんなとき、チームメイトから「伸び代があるから、第20回冬季デフリンピックの選考会に出てみないか」と声をかけられました。

そこからはチームメイトに内緒で自主練習を重ね、選考会で実力を発揮することができ、デフカーリングの日本代表に選ばれました。



R6.2.21 第20回冬季デフリンピック競技大会への出場を文化スポーツ局長（中央・当時）に報告する山口さん（右）

ーカーリングだけではなく、卓球も得意とお聞きしましたが。

令和6年度東北ろうあ者体育大会で、デフ卓球混合ダブルスで優勝しました。個人戦は3位でした。9月には群馬県で全国ろうあ者体育大会が開催されます。デフ卓球はデフ競技の中でも競技人口が多く、強豪が揃っているため、入賞は厳しいと思っています。

卓球は小学3年生のときに始めました。地域の小学校に通いながら、きこえるクラブチームに所属していました。中学・高校では、ろ

う学校に通い、6年間卓球部に所属しておりましたが、同時にきこえるクラブチームでも活動していました。

現在は、卓球の第一線からは退いていますが、今後は福島県の有望なデフ卓球選手をサポートしていけたらと思っています。

ーあなたにとって、デフリンピックとはなんですか。

参加する前も、参加した後も変わらず、私にとって「夢の舞台」です。本当にトップレベルの舞台だと感じました。

オリンピックのように、世界中の人々が一つの場所に集まり、同じ目標に向かって競い合う、そんな機会はなかなかありません。平和的でありながらも、非常に熱いイベントだと思います。

見ている人にも夢と感動を与えられる点で、デフリンピックは素晴らしい場所だと感じています。



ー競技をする上で、ここが難しい・苦勞していると感じたことはありますか。

正直、全てが難しいです。残念ながらメダルは取れなかったのも、まだまだだと思っています。

一つ挙げるなら、デリバリー（ストーンを投げる動作）が非常に難しいです。きこえるトップレベルのオリンピックでも、今なお研究が続いているほどです。

例えば、目印から角度が1度ずれるだけで、ハウスでは60センチから70センチほどズレてしまいます。それが試合の勝敗を決めることもあるのです。たった1度のズレが致命的になるほど繊細な競技で、そこが難しいところだと思います。

デフリンピックのときのポジションはリードでした。リードは4人のうち最初に2つのストーンを投げる役割を担います。まだ誰も投げていない氷の状態を把握し、または予測しながら的確に投げなければならず、非常に難しい役割です。さらに、そのリードのストーン的位置によって試合の流れが決まると言っても過言ではないほど重要な役割だと感じています。



—東京 2025 デフリンピックは、初回の大会から100周年を迎えるとともに、国内で初開催となる記念すべき大会となります。さらに、サッカー競技が福島県で開催されることになりましたが、このことについて思いを聞かせてください。

一言で言えば、大きなチャンスです。

100周年という節目は、日本だけでなく世界が注目しているはずです。この機会を通じて、デフスポーツやデフリンピックの知名度が上がり、盛り上がっていただければと思っています。

さらに、この福島でサッカー競技が開催されること自体も大きなチャンスだと感じています。ぜひ、県民の皆さんにはニュースや配信を通じて、一緒に盛り上がっていただけたらと思います。



ー冬季デフリンピックに出場した感想をお聞かせください。  
また、今後の目標を教えてください。

終わってみれば「楽しかった。いい思い出だった」と思える一方で、やはり悔しい気持ちも残っています。日本代表として出場している身なので、「すごいね。がんばったね」という温かい言葉をもらうこともあれば、「メダル取れなかったの？」と厳しい言葉をかけられることもあります。

国際大会に出場できたことは本当に貴重な経験で、世界のレベルを知ることができました。また、自分の実力がどのくらいかも振り返ることができました。現在は、何も分からないまま臨むデフリンピックではなく、経験をもとに、どういった練習が必要かを理解して取り

組んでいます。次こそ、本気で金メダルを目指して、チームで練習を続けています。

—金メダルを目標にとの言葉がありましたが、次の冬季デフリンピックにも出場を目指しているのですね。

もちろん目指しています。もう一度出たいという強い気持ちがあります。

一方で、私たちのカーリングのレベルを向上させるためには、きこえないカーリング選手の発掘や競技人口の拡大も、自分にとって大切な課題だと感じています。自分の立場が脅かされるかもしれませんが、全国から優れた選手を見つけ、育てていくことにも力を入れていきたいと思っています。



—選手としてだけでなく、デフカーリング選手の育成にも取り組んで行くんですね。

来年、横浜で日本カーリング選手権大会（きこえる公式戦）が開催

されます。東京や神奈川で大会が行われるのは初めてなので、大いに盛り上がっています。しかし、残念ながらデフカーリングは競技人口が少なく、国内大会はありません。そのため、競技人口を増やし、選手を育成することが今後の重要な課題だと思っています。

良い面で捉えれば、きこえる大会に出ることで、きこえる人と対等に、それ以上に戦える力が自分たちにあることを証明できるかもしれません。

しかし、デフ選手がきこえる公式戦に出場するハードルは高めです。なぜなら、きこえる公式戦では同じ都道府県ブロック内の選手を3人以上含めてチームを組まなければならないからです。デフ選手は全国各地に住んでおり、チームが組みづらい現状があります。

現在、きこえるカーリング協会にデフの現状を説明し、登録している都道府県が違ってても出場できるよう交渉を進めています。

—プライベートな質問に入ります。

休日はどのように過ごされていますか。

すきあらば、カーリングです（笑）。

でも、友人と会う予定があれば、その時間を楽しみますし、一人の時間があれば観光をしています。

福島には令和5年4月に引っ越してきたのですが、まだまだ知らない場所がたくさんあるので、観光に出かけたりしています。

最近は、時間があればもっぱら軽井沢のカーリング場へ行って練習しています。カーリング場は青森にもありますが、個人で行くにはかなり遠いので、基本的には軽井沢で練習しています。

—軽井沢にはチームメイトとか、一緒に練習する仲間がいるのですか。それとも個人練習をしているのですか。

場所が比較的近いことと、全国でもしっかりとしたカーリング場が少ないため、軽井沢に行かざるを得ないというのも実情です。

昨日は軽井沢在住のデフ選手2人と練習を行い、ラインのずれやフォームをチェックしてもらいました。一人で練習するときは、氷上

で安定した動きができるか、自分の経験値を高めるための練習をしています。コーチには合宿や重要なタイミングで来てもらっています。コーチは青森に住んでおり、北海道出身です。元アジア大会優勝者で、国際大会にも何度か出場経験のある方（きこえる方）です。



ーリフレッシュするためにしていることはありますか。

今はカーリングが本当に楽しくて、夕飯を食べながら YouTube でカーリングの動画を見たりしています。スポーツバカですよ（笑）。その動画を見るのが良いリフレッシュになっています。

ーモチベーションを上げる方法は

カーリングをしているのは、決して自分一人のためではありません。

私が福島に来た理由の一つは、福島のきこえない子どもたちに、全国のきこえない先輩の活躍やロールモデルの情報を伝えたいと思ったからです。大学での学びやスポーツでの経験など、見たり感じたりしてきたことをきこえない子どもたちに伝え、「こんな活躍の仕方

あるんだ」と知ってもらいたいと思っています。スポーツに限らず、「頑張ることは素晴らしいこと」や「夢を持つことの大切さ」を感じてもらいたい。福島のきこえない子どもたちがより広い選択肢をもって未来を思い描けるような環境を作りたい。その思いが私のエネルギーの源であり、カーリングを頑張る理由でもあります。

—勝負メシはありますか。また、試合前、願掛けや験担ぎですることはありますか。

いつもどおりのことをやる、というのがベスト。あえて言うならば、肉が好きなので、焼き肉やしゃぶしゃぶで気持ちを盛り上げていく、切り替えるということはありません。

デフリンピックから帰ってきたとき、「帰ったら何食べる？」という会話が本当にあるんだなと思いました。自分はラーメンと寿司が食べたかったです。トルコに2週間行っていたのですが、肉と米しかなくて。



—現在、ハマっていることはありますか。

福島の色々な所に行きたいと思っていて、特に温泉が好きです。こ

の前は、高湯温泉に行ってきました。福島県内に温泉はたくさんあるので、そこを巡りたいと思っています。

デフリンピック夏季大会は2025年に日本で開催されますが、冬季大会もぜひ日本で開催してほしいです。日本のカーリング場は世界的にも評価が高く、氷の状態も素晴らしいので、選手にとって理想的な国際大会の会場だと思います。「こんなにやりやすいんだ、面白い試合ができるんだ」と感じてもらえるはずです。

—最後に、応援してくれるみなさんへメッセージをお願いします。

デフリンピックで頑張れた源は、日本で応援してくれている方がいたからです。まずは、皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたいです。ありがとうございました。

私がカーリングを始める前に、高校時代のきこえない先輩がデフリンピックの日本代表選手として活躍しており、それを見て「かっこいいな、自分も頑張りたいな」と純粋に思いました。今後は、応援してくれている方々に、夢や感動を与えるプレーができればと思っています。これからも、応援よろしくをお願いします。